

2009 年度前期 専攻教育改善委員会 (FD 研修会) 議事録 (案)

1. **開催日時** : 平成 21 年 9 月 24 日 (木) 15:00-16:00
2. **開催場所** : S2 棟 3F 会議室
3. **出席者** : 安原一哉, 横山功一, 沼尾達弥, 井上凉介, 金利昭, 山田稔, 小峯秀雄, 原田隆郎, 桑原祐史, 信岡尚道, 藤田昌史 (順不同, 敬称略)

1. 景観設計特論 (小柳)

- ・一部、現地調査を重視したレポート課題を科した。
- ・実習型と解説型の授業のバランスを検討する。

<議論内容>

・大学院から入学した学生と学部から進学した学生に対する講義内容の工夫。実習型演習課題を取り入れている。

2. 地球環境システム論 I (三村)**3. 構造工学特論 (呉)**

- ・基礎に重点を置いて講義している。

4. 土木計画学特論 (金)

- ・履修者数が増えた。開講時期を後期から前期にしたためか。
- ・回帰分析などを直接指導している。

5. 環境地盤工学特論 (小峯)

- ・履修者のバックグラウンドを考慮して、講義で取り扱うトピックスを工夫している。
- ・学生にとって課題が厳しいという印象がある。最近、取り止める学生が出てきた。

6. 沿岸環境形成工学特論 (横木)

- ・留学生が履修したので、英語と日本語で講義を行った。

7. 社会基盤情報処理特論 (原田)

- ・昨年度よりも履修者数が減った。やる気のある人が履修したと考えている。
- ・引き続き、プログラミングの課題を科している。

<議論内容>

- ・他の科目との連携は? 研究科としてカリキュラムの再検討の要請がある。

8. 構造物維持管理学特論 (横山)

- ・共同作業をさせることが有効だった。
- ・自発的に英語のスライドを準備する学生がいた。

9. 国土空間情報特論 (桑原)

- ・留学生が履修しているので、日本語と英語を併用して授業を行っている。教員にとってもメリットがある。
- ・情報工学科と連携して授業を行った。

<議論内容>

- ・D 評価の成績評価の方法について確認があった。
- ・専門用語を英語で覚えさせることも重要。

大学院における特別研究と特別演習の内容

・各研究グループより、別途資料を用いて報告が行われた。特別研究 I と演習 I の成績評価について、定量的な基準を検討する必要があることが、主な課題としてあげられた。